

二〇一八年一〇月二日

混み合うて箸急かさるる走りそば
秋風や更地になりし風呂屋跡
月光をまとひ到着終電車
一つ灯に偕老願ひ栗を剥く

二〇一八年一〇月二日

秋高し修復なりし吊橋に
乳齒二本抜けし笑顔の七五三
大池に沿うては離れ野路の秋
隠沼の面に蒼穹秋高し
喜寿卒寿集ふ兄妹菊日和
朝寒やスリッパ探す足の裏

二〇一八年一〇月一〇日

唐風の邸を映して池涼し
気乗りせぬ夜なべの針に刺されもす
木の実落つ梢のリスと目の合ひぬ
血ばしりし眼見開き牛合せ
秋の声臥せる風禍の大樹より
深秋や小さくなりし我が背丈

二〇一八年一〇月九日

掛け終えて稲架芳しき夕まぐれ
直線にセコイア並木秋高し
な踏みそ磴に散らばる銀杏の実
免許証ついに返納秋高し

たか子

はく子

智恵子

うつぎ

やよい

こすもす

菜々

隆松

はく子

たか子

菜々

うつぎ

智恵子

なつき

はく子

やよい

明日香

菜々

こすもす

宏虎

明日の晴れ約束してる秋夕焼

秋澄むや旅の小道に芭蕉句碑

二〇一八年一〇月八日

島バスのアップダウンや蜜柑山
秋霖に街灯けぶる浜通り
スクランブル交差点混み秋暑し
紅葉山震禍の疵の生々し
秋天を一太刀に斬る飛行雲

二〇一八年一〇月七日

窓越しの秋日を返す暈の目
黄金の稲田の波間夕日落つ
高牧の裳裾に展け大花野
雲龍の水墨画めく野分雲

二〇一八年一〇月六日

コスモスの風に帽子を取られけり

明日香

ぼんこ

宏虎

そうけい

満天

なつき

たか子

三刀

たかを

智恵子

せいじ

治男

毎日句会みのる選・二〇一八年一〇月一四日